

## 第13回全国大会開催報告 2017/8/31

第13回全国大会は、2017年8月21日～23日の会期で日本文理大学において開催されました。全国の大学等からの215名に会場校の教職員110名以上が加わり、合計300名を超える参加者を迎え、各会場で熱心な討論が交わされました。この素晴らしいキャンパスを会場としてご提供くださった日本文理大学様に感謝を申し上げます。

今年度の大会テーマは「高大接続システム改革はリメディアル教育を変えるか?」でした。大会2日目には、創価大学の関田一彦先生による基調講演「協同教育の視座からのリメディアル教育への願い」がありました。その後、日本文理大学の吉村充功先生（大会実行委員長）がコーディネータとなり、現地企画「高大接続システム改革への現場の取り組みからリメディアル教育を考える」を実施しました。指定討論者の関田先生の他、大分県立大分豊府高等学校の佐藤茂先生、大分県立爽風館高等学校の太田恭二先生、大分県立日田高等学校の賀来宏基先生にご登壇いただきました。



全国大会の大きな柱である一般発表については、多くの会員から応募をいただき、審査の結果、48件の口頭発表と15件のポスター発表がありました。大会3日目は、専門部会による企画として、理数系部会、日本語部会、英語部会2件、学習支援部会および理事会企画の合計6件のラウンドテーブルやワークショップが行われました。

また、今年度は大会前日の8月20日に、鈴木照夫先生（大会実行副委員長）にご尽力いただき、プレカンファレンスが日本文理大学湯布院研修所で行われました。参加者からの各大学での課題や学会に望むことについて、ワールドカフェ形式で議論しました。

最後に、本大会の開催にご協力くださいました多くの方々に御礼申し上げます。

【追記】来年度の全国大会は、創価大学（東京都八王子市）で開催いたします。

## 大会発表優秀賞受賞者について 2017/8/31

大会発表優秀賞（第13回大会）は、厳正な審査の結果、以下の方々が受賞されました（五十音順）。  
○が筆頭著者（受賞者）です。

1) 「情報教育における高大接続の試み」

○秋山英治（愛媛大学）、仲道雅輝（愛媛大学）、都築和宏（愛媛大学）、  
光宗宏司（愛媛大学附属高等学校）、三好徹明（愛媛大学附属高等学校）

2) 「学習方略定着を重視したシラバスとポートフォリオを統合した英語授業の一事例」

鈴木政浩（西武文理大学）

3) 「日本語学術共通語彙知識の発達」

○田島ますみ（中央学院大学）、佐藤尚子（千葉大学）、松下達彦（東京大学）、  
笹尾洋介（京都大学）、橋本美香（川崎医科大学）

4) 「新国際学部初年次学生に対する実践的な異文化理解教育と英語教育の実践」

望月肇（大阪産業大学）

5) 「体育系学部の英語授業で必要な指導の方向性について」

○望月好恵（国際武道大学）、鈴木政浩（西武文理大学）、壁谷一広（大阪体育大学）、  
大和久吏恵（日本女子体育大学）

以上

【文責】寺田貢【編集】中園篤典

## ※参考資料

### 日本リメディアル教育学会 大会発表優秀賞 選定規定（平成 29 年新設）

平成 29 年 6 月 20 日

日本リメディアル教育学会の全国大会では、大会発表優秀賞を設ける。この賞は、大会予稿及び発表を踏まえて、優秀な内容（口頭発表及びポスター発表）に対して授与されるものである。なお、大会発表優秀賞の受賞者には、学会誌への推薦論文として投稿を勧める。本学会は、様々な部会が存在することから、大会発表時の領域毎に選定できるように配慮する。

1) 10 件に 1 件の割合で、優秀賞を選定する。端数として、 $10 \pm 3$  件に 1 件の範囲内で許容する。優秀賞は、発表者（筆頭著者）とする。

2) 大会発表時の領域毎の選定が可能となるように、1) を満たすグループ化を図る。条件を満たさない分類は、他の分領域と合わせ、条件を満たすか、または近い条件になるように調整する。

3) 審査に際しては、大会発表優秀賞選定委員会を設置する。委員会（委員長 1 名及び幹事数名（各部会担当を想定））は、大会企画委員会の下で構成する。

4) 委員長及び幹事は、大会企画委員会のプログラム委員会と連携して、発表内容の分野との整合性を考慮して一次審査委員及び座長（二次審査委員候補）を選定する。

5) 一次審査委員は、担当の予稿の事前審査を行う。審査は、1)新規性 2)有用性 3)信頼性 4)了解性（記述の分かりやすさ）を以て審査する。

6) 一次審査のうち、上位 1 / 3 以上を当日審査（座長による審査）の対象とする。

7) 一次審査対象者が発表を行う座長は、発表に関する審査（二次審査）を行う。発表に関する審査も、1)新規性 2)有用性 3)信頼性 4)了解性（発表の分かりやすさ）の観点で審査する。なお、ポスター発表についても二次審査委員を設定する。

8) 大会最終日に、予稿及び発表審査の合計に基づき、最終審査を合議で行い、受賞者の選定を行う。

9) 受賞者については、大会日の閉会式で発表する。

10) 大会発表優秀賞対象者が希望する場合、推薦論文を期日までに提出できる。推薦論文は、編集委員会の領域毎の論文担当の下、領域を加味した査読者を選定し、各部会の採録の観点を考慮して論文作成のアドバイジングを行う。

以上